

平成 29 年度 自己評価表

鳥取県立米子白鳳高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	多様な学習歴やニーズを持つ生徒の学習を支援し、社会で共生する資質と自立の基盤となる能力・態度を育む。	今年度の 重点目標	1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 心豊かに他と共生する態度の育成 3 社会的自立への支援
---------------------------	--	----------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業、面接指導(スクーリング)の改善	○授業を大切にしている態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。	○合理的配慮の観点を取り入れた授業の展開 ○学習に取り組みやすい環境整備の推進 ○全職員の情報共有による授業実施	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮についての説明を全職員に行った。 ○現時点で、授業の出席率は余り高くない。	C	○伝え方を工夫するなど、ユニバーサルデザイン・合理的配慮に基づいた授業をさらに推進する。 ○さらに情報を共有し、個別の支援・声かけを継続し、授業への動機付けを行う。
	○生徒理解と環境整備	○生徒のおかれた環境を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○生徒が、安心して学校生活に取り組むことができる。	○個人面談・アンケートによる生徒理解と情報共有 ○SC・SSW・白鳳サポーターとの連携による生徒指導	○各課程会議での情報共有やSC、SSW、サポステ、白鳳サポーターとの情報共有を行った。 ○Hyper-QU研修を実施し、生徒分析と生徒別の支援を検討した。	B	○共有した情報をもとに、支援方針を引き続き検討していく。 ○中学校からの引き継ぎを活用し個別支援をさらに充実させる。
	○ICT教育の推進	○ICT化の進展に伴い、情報活用能力の育成が必要である。	○ICT機器の活用ができる。	○ICT活用のための教員研修 ○各教科でのICT活用 ○NHK高校講座でのICT活用	○タブレットの活用についての職員研修を行った。 ○授業でのタブレットの活用は着実に増えている。	B	○iPadを含めICT機器の活用を引き続き推進する。 ○ICT機器を活用しての公開授業等への参加を促す。
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○規律指導	○挨拶、言葉遣いなど基本的な生活習慣を身につける取組が必要である。	○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いすることができる。	○遅刻・欠席の防止指導 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導	○マナーアップ運動、マナー講演会を開催したが生徒の意識に差がある。 ○1年次生にはモラル教育研修を実施したが、時間が守れない生徒も見られる。	B	○今後とも日々声掛けをしていき、生徒が自発的に挨拶が出来、時間を守るよう、マナー指導等の充実を図る。
	○自己理解・他者理解の促進	○人間関係力の育成をする環境づくりが必要である。	○生徒同士の信頼関係を醸成し、クラスが居心地の良い場となる。	○生徒理解のための教員研修の実施 ○通級指導に関する先進校視察の実施 ○エンカウターの実施	○計画どおり事業を実施し、教員の生徒理解、生徒の自己理解が深まりつつある。 ○通級指導に関する事業を計画通り実施した。 ○エンカウターによりクラスが居心地よくなった。	B	○通級指導に関する先進校視察をさらにを行い、通級指導に向けての調査・研究を継続する。
	○体験活動とおとした社会性の育成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高める必要がある。	○諸活動において、自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。	○チャレンジものづくり体験 ○テーブルマナー講習 ○乗馬体験、校外研修の実施 ○蔵書点検ボランティア	○体験的活動を計画どおり実施し、生徒の社会性が育ち、いきいきと学校生活が送れるようになってきている。	B	○今後も引き続き体験活動をととして、生徒自ら進んで行動できるよう、事業を実施する。
	○地域・社会との交流	○地域との交流をおとし、地域社会や周りの環境に対する関心を高める必要がある。	○地域社会や環境に関心をもち、異世代とのコミュニケーションができる。	○さつまいもの植付・収穫・会食を通した園児との交流 ○銭太鼓、傘踊り体験 ○マツムシソウ、ヒガンバナの植栽活動	○計画どおり事業を実施し、地域の人々や文化に触れることで、他者との関わりや地域のつながりを学ぶことができている。	A	○今後も地域との交流活動や貢献活動など、引き続き計画した残りの事業を実施する。
3 社会的自立への支援	○キャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、進路意識を早期に向上させる必要がある。	○進路に対する意識付けと自分の適性にあった進路実現を達成することができる。	○就職・進学講演会の開催 ○CAと連携した進路指導 ○学年団と連携した進路指導	○進路意識を深める各種のキャリア教育事業を計画通り実施した。 ○自分の適性を見極められずにいる生徒がいる。	B	○進路実現向けの個別面談等の対策を更に充実させ、進路決定に向けての指導の充実を図る。
	○「産業社会と人間」 「総合的な学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて徐々に身につけている。	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○マナー講習会の実施 ○陶芸制作	○自立に向けた活動を計画どおり実施し、プレゼンテーションなど自己表現能力や、卒業後の進路目標など徐々に身につけつつある。	B	○テーブルマナー講習会・学習成果発表会等、自立に向けた活動を計画どおり実施をする。
	○関係機関との連携	○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。	○個々の生徒が、それぞれ進路相談および進路活動の充実により進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○障害者就労・生活支援センターとの連携 ○ハローワーク・サポステとの連携 ○インターンシップの推奨	○個々の生徒のニーズに応じて関係機関と連携し、進路実現に向け取り組んできた。 ○生徒系HPに奨学金支援関係と連携するページを開設した。	B	○引き続き計画した各種事業を実施し、生徒自身が社会経験を積むように働きかける。

評価基準 A:目標を達成している B:ほぼ計画どおり推進している C:取組がやや遅れている D:一層の取組が必要である E:目標・方策の見直しが必要である

<100%>

<80%程度>

<60%程度>

<40%程度>

<30%以下>